日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒280 千葉市要町2番8号（動力車会館）
電話 （鉄電）千葉 2935・2936番
（公）千葉（22）7207番

91.10.18 No. 3478

嵐を切り裂く三里塚の正義

台風をついて……四六8名が結集

激動の時代そのままに、台風二一号の接近による嵐のような雨の中、県内全線ストップの状況をものともせず、一〇・一三三里塚現地集会は、反対同盟所有地に全国から四六〇〇名が結集し、強制収用に道をひらく、「公開シンポ」粉砕へ向けた反対同盟の決意を全国に示した。

11月13日に開かれる公開シンポ粉砕へ決意を固める参加者。

「公開シンポ」は二期促進のデッチ上げ

（基調要旨）
北原事務局長

脱落派は一坪共有地という、反対同盟の共有財産を売り渡す二期促進の先兵となった。

政府・公団は、常時一万人の機動隊の暴力によって、団結小屋の破壊・撤去、土地収奪のために襲いかかってきたが、ついに一かけらの土地もとれなかった。

「公開シンポ」とは、二期促進のためにデッチ上げられた連中の集まりであり、とれるもの見返りを確保するというものだ。

周辺には騒音・公害・環境破壊がやってくることは自明の理だ。

天皇がアセアン訪問から帰ってきたが、カンボジア派兵―PKO法案の宣伝としてアジアに行ったのだ。

若い諸君が再び銃をアジア市民に向けるのか問われているし、成田空港の軍事使用の問題含め、三理塚二六年の地平は偉大なものとして存在している。真実、闘う潮流を作ろうではないか！

「隅谷調査団」は、分割・民営化の張本人――労働者階級の未来かけ、闘いぬこう――

（連帯あいさつ要旨）
動労千葉田中書記長

嵐の中に立って私は海つばめの歌を思い出した。ここに結集した者だけが嵐の時代の中で高く飛しょうする仲間であり、三里塚と動労千葉の車の両輪たる強いきづなを感じた。

「公開シンポ」の隅谷調査団とは、分割・民営化―二百人にも及ぶ自殺、十万人の首切り、清算事業団一四〇七名首切りの張本人であり、公正で客観的判断などできるものではない。

PKO＝自衛隊海外派兵という歴史の転換点に立って、今こそ三理塚の精神・主張が自分たちの身体に脈うつのか、闘う勢力の体制を構築できるのかが問われている。

「JR体制」は分割・民営化について、何も解決しないままに崩壊した。

JR総連の分裂・瓦解は今後全国をおおうだろう。

一切が年末から来年へ向けて集中してくる。

車の両輪として、労働者階級の未来をどう切りひらくのか。

持てる力を十倍、二十倍化して闘う！

4・28闘争勝利 原職奪還へ向け、郵政省へ抗議デモ

「全逓中央の闘争終結を弾劾する」

一〇月一三日一八時より、日本橋公会堂において、全逓四・二八被免職者の原職奪還に向けた反処分の集会が、全国から結集した多くの全逓労働者と争議団が結集し、開催された。

＜四・二八不当処分とは＞

一九七八年年末、全逓は全国の郵便局で、反マル生闘争を闘った。

そして当局は、その報復に解雇・懲戒免職六一名の大量不当処分を強行した。マル生弾圧です。

また、「連合」全逓は被解雇者の「犠救うち切り」「組合権の剥奪」を強行し、闘争終結・前面屈服をしたのです。

集会は、基調報告、各分会の決意表明を受けたのち、裁判の取り下げを拒否し闘う被免職者六名が登壇し、「自力・自闘で、原職奪還まで闘う」と、力強い決意表明を行い、集会後全参加者は、郵政省までの抗議デモを貫徹した。

反合・運転保安確立！ 反戦・反核を担う労働運動を！